「脳器質損傷による高次脳機能への影響に関する実態調査研究」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、*【埼玉医科大学総合医療センター研究倫理審査委員会】*の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

１．研究の対象となる方

2021 年 5 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日の期間に*【埼玉医科大学総合医療センター】*を受診し、脳器質的損傷（具体的には、脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、脳炎、低酸素性脳症、自己免疫疾患等）と診断され、検査を実施した患者さんを対象としております。

２．研究の目的

脳卒中は我が国の死亡原因の３位です。救命できたとしても脳損傷による様々な障害が残される場合が多いです。運動障害、感覚障害だけでなく失語や高次脳機能障害（記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害)、失行、失認、半側無視など多彩な症状を呈します。日常会話が成立し明らかな麻痺もない場合、殊に高次脳機能障害は見逃されやすい傾向にあり、かつ患者さんご本人も病識も欠如しリハビリテーション目的の転院にはならず自宅退院後、車運転や復職し事故や離職が生じる事案も少なくありません。しかし、どのくらいの割合で高次脳機能障害が発生しているかその実態はいまだに明らかではありません。

本研究は、急性期の脳器質的損傷（脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、脳炎、低酸素性脳症、自己免疫疾患等）患者における高次脳機能障害の有無や病態ごとの特徴を神経心理学的に明らかにすることを目的としています。

３．研究期間

病院長の許可後～2027 年 03 月 31 日

４．利用または提供の開始予定日

2021 年 10 月 01 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

１．試料・情報の内容

※利用又は提供する情報（神経心理検査データ、画像（頭部 CT,
MRI、ＳＰＥＣＴ等)、診療記録等）を分析・判断します。
※この研究で得られた患者さんの情報は、*【埼玉医科大学総合医療センター】*において、理学療法士　鈴木　翔太が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

２．試料・情報の取得方法

上記脳器質的損傷と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

３．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

・埼玉医科大学総合医療センター　リハビリテーション科　大林 茂（研究代表者）

４．試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学総合医療センター】　病院長　別宮　好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。
利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。
ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター　リハビリテーション科　大林　茂（担当者氏名）
住所：〒350-8550　埼玉県川越市鴨田 1981
電話：049-228-3529（土日祝日を除く 8：30～17：30）

〇研究課題名：*脳器質損傷による高次脳機能への影響に関する実態調査研究*
〇研究責任（代表）者：埼玉医科大学総合医療センター　リハビリテーション科　大林　茂